特集 まちづくりの現場から

このコーナーは、上毛町第1次総合計画に掲げられた目標を実現するために町が取り組んでいる事業のプロセスや課題などを、毎月シリーズで紹介するものです。
今月は、「防災対策」の現場からお届けします。

わたしたちができる防災対策を考える

3月11日に発生した「東日本大地震」。マグニチュードは国内観測史上最大の9.0を観測し、未曾有の大災害となりました。あれから5カ月が経過した今でも、被災地では復旧に向けての課題が山積みです。
現在、懸命の復旧作業が行われていますが、これからも継続した様々な支援活動が必要とされています。
大震災を目の当たりにし、私たちが日頃からできることを考えてみましょう。

被災地の様子

上毛から東北へ 復興・支援活動

上毛町職員が宮城県東松島市へ「東日本大震災被災地支援行政機能チーム」として活動して得たこと

総務課●有野 宏
総合案内・相談業務に従事
5月21日から29日まで福岡県合同・市町村第5陣として派遣

「日頃の備えと心構えが大切」

市の職員は、3交替24時間体制で勤務し、疲労はピークの状態でした。しかし相次ぐ相談や罹災証明交付申請※などが後を絶たない状況で、混乱のなかでもしっかりと対応していたのが印象的でした。
被災地の大変な状況に接し、普段の備えが大切だと思いました。地震を止めることはできませんが、備えることはできます。個人・地域・町がいざ災害が起きた時、どこに避難するか、どうやって助け合うか、防災に対する意識を高めていくことが大切だと改めて感じました。
※証明書がなければ各種の支援を受けることができません。

産業振興課●末吉 孝幸
震災復旧対策室業務(仮設住宅関連)及び住宅の応急修繕に関するデータ入力業務に従事
6月8日から16日まで福岡県合同・市町村第8陣として派遣

「長期間で専門的な支援が必要」

被災地の大変な状況を目の当たりにし、驚愕しました。派遣中、福岡県の文字の入った支援活動服を着ていると市民の方から「ありがとう」とあたたかい声をかけていただき逆に元気づけられました。
義援金や支援物資の搬送についてテレビでも話題になっていましたが、処理が追いついていない状況です。少しずつ状況は改善していますが、完全な復興にはまだまだ数年かかると思われます。
行政支援についても今回のような短期間ではなく長期間で様々な相談に対応できるよう専門的な支援が必要であると思いました。

住民課●森口 泰成
住宅の応急修繕に関するデータ入力及び受付業務に従事
6月20日から7月1日まで福岡県合同・市町村第10陣として派遣

「地域のたすけあいが大切」

海岸沿いで津波の被害を受けた地域はほぼ壊滅状態でした。震災から100日以上過ぎ、相談内容も複雑多岐に渡っていました。市の職員だけでは手がまわらないといった状況で、更なる行政支援の必要性を感じました。
「津波が来たときに、近所の人の声掛けのおかげで、津波から逃れることができた」と語る人がいて、いざという時、近所の人と声を掛け合える関係を作っておくことが大切だと思いました。

義援金の報告

ご協力ありがとうございます

東日本大地震で被災した地域のみなさんに1日でも早い復興に役立てばと募金箱を設置しています。これまで個人、団体、学校や企業などの皆さまからあたたかいご協力をいただいています。
これまでの中央共同募金会への送金額を報告します。

8月22日現在 **8,768,038円**

今後も引き続き義援金の受付を行ってまいりますので、ご協力をよろしくお願いします。
上毛町・社会福祉協議会

帰庁後の報告会の様子

災害に屈しない地域へ ~わが地域は、地域で守る~

「わがまちは、わが手で守る」ことが、地域を守る効果的な方法の一つです。例えば自分が生き埋めになったとき、それに気付き、救出活動を始めてくれるのは誰でしょうか。震災のような広域災害では、防災機関(警察や消防など)も、同時にすべての現場に向かうことはできませんし、自衛隊など被災地の外からの応援の到着には時間がかかります。つまり、近隣のみなさんが救出してくれるのを待つほかないのです。救出活動も消火活動も、早く始めるほど、そして、多くの人が参加するほど、被害を小さく抑えられます。災害時に円滑に協力するためには、いざというとき、近所の人と声を掛け合える関係を作っておくことが大切です。
上毛町では、自治会単位で「地域防災推進員」を選出していただき、災害要援護者名簿の登録や地域で保有する防災関係資材の管理をお願いしています。いざ災害が起こったとき、どこに避難し、どうやって助け合うか地域防災推進員を中心に話し合い、災害時の協力体制を更に発展することが求められています。

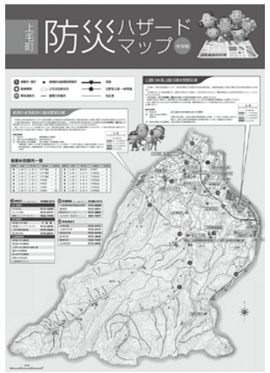
安心して暮らして行くために ~家族で防災会議を~

「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。地震の揺れの中では、誰もが自分の身を守ることはできません。揺れがおさまったとき、目の前の火災を、最も早く消すことができるのは自分です。そしてけがをした家族の手当を、最も早くできるのは家族です。被害を最小限に抑えるには、関係機関の役割や地域の協力はもちろんですが、皆さん一人ひとりの「備え」が大切です。生命・財産・大切な家族を守るため、いざというときに備えて日頃から家族と話し合っておきましょう。

⚠いざというときに備え家族で話し合っておくこと

○役割分担をきめる
いざというとき、だれが何をするのか。1人の災害時要援護者に対して、誰を中心として、だれが(複数人)支援するのかなど具体的な救援体制について話し合いましょう。

○避難所・避難ルートの確認
いざというとき、どこにどういう経路で避難すべきかを上毛町防災ハザードマップ※で確認しましょう。また家族が離ればなれになったときの集合場所を確認しましょう。



※上毛町防災ハザードマップは、平成20年に作成し、町内全戸に配布しています。マップがない方は、総務課までお問い合わせください。

上毛町第1避難所(福祉避難所)

【新吉富地区】げんきの杜

【友枝地区】大平支所

【唐原地区】唐原コミュニティセンター

地震が起きても慌てずに ~地震の備え~

⚠わが家の安全対策

○家の補強
柱、土台や屋根瓦などを点検し、老朽化しているものは、補強をしておきましょう。

○ブロック塀、石塀の補強
これらの被害は、基準どおりの鉄筋が入っていないとか、転倒防止の控壁を設けていないなど、施工上の欠陥によるものが多いので、もう一度わが家の塀を点検しましょう。

○家具などの転倒、落下防止
- 家具はホームセンターなどで販売しているL字形金具、留め金や支え棒などを利用して固定しておきましょう。
- 高い所に重いものは置かないようにしましょう。
- 寝室にはなるべく家具はおかないようにしましょう。
- 照明器具は、補助の鎖などで補強しましょう。
- キャスター付きの家具は、足を固定(車輪の向きを変えるだけでも違います)しましょう。

⚠地震から身を守るポイント

○まず落着いて身の安全を
- 揺れを感じたら、まず丈夫な机やテーブルなどの下に身をかくしましょう。座布団などが身近にあれば、頭部を保護しましょう。
- 揺れを感じたら、玄関などの扉を開けて非常脱出口を確保しましょう。周囲の状況をよく確かめ、あわてて外へ飛び出すことなく落着いて行動しましょう。

○あわてず冷静に火災を防ぐ
- 使用中のガス器具、ストーブなどは、すばやく火を消しましょう。
- ガス器具は元栓を締め、電気器具は電源プラグを抜きましょう。
- 地震後に避難する場合は、ブレーカーを切ってから避難しましょう。(電気機器の転倒で、燃えやすい散乱物などに接触し出火することがあります。)
- 万一出火したら、消火器や三角バケツなどの消火用具でボヤのうちに消し止めましょう。